



新九郎通信

発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

艶やかな若葉をまとった桜が美しい季節になりました。小田原の5月は北条祭りで幕開けです。近隣の町では、アートフェスティバルが盛んです。小田原、大磯、二宮、平塚、松田、大井、秦野のギャラリーや店舗が舞台の、「丹沢アートフェスティバル」。リュックに水筒をもって、ゆっくりと目的地を探しながら歩いたり、ドライブしたり、自然とアートに触れる休日の過ごし方はおすすめです。今年も新九郎も初参加です。5月2日は恒例の新九郎寄席が開催されます。

新九郎 5月の展覧会のご案内

近隣・友の会会員の展覧会情報

	会期 展覧会名	見どころ
	4/29(水)~5/11(月) 5/5(火)休 横井山 泰展「箱ざんまい」	新九郎9回目の個展、擬人化された動物等、独特の個性です 5/2(土) 17:30 レセプション
	5/2(土) 第11回新九郎寄席	立川志らら、笑福亭瓶二 午後3時開演、1500円
	5/13(水)~18(月) 第32回フォトサークル 光友会写真展	会員6名による写真展 風景、花等約40点
	5/18(金) 新九郎デッサン会	18:15-20:45 会費1500円 コスチューム、固定ポーズ
	5/20(水)~25(月) 第3回アール・ド・ヴィーヴル展 自分らしく生きるⅢ	知的障がい者のアート作品の 展示、オリジナルグッズの販売 裏面に紹介あり
	5/27(水)~6/1(月) 押し花&ガラスアート 作品展	なでしこの会主催 押し花、ガラスアート、シルエ ットアートの作品

会期・展覧会名	会場
5/13(水)~5/18(月) 高橋恵美子×瀬戸嘉枝 二人展	お堀端画廊 0465-23-7819
5/20(水)~5/25(月) 第38回 あらたま展 絵画彫刻	飛鳥画廊 0465-24-2411
5/13(水)~5/18(月) 第12回 水彩画愛好会作品展	アオキ画廊 1F 0465-22-0825
5/12(火)~5/24(日) 春の沈黙 竹橋啓一×加藤肇司	すどう美術館 0465-36-0739
5/10(日)~5/23(土) 水木休 くうあ絵本原画展	ギャラリーさざれ石 0463-67-9662
5/20(水)~5/24(日) 第68回小田原市 市展	小田原市生涯学習センタ -けやき 0465-33-1706
4/25(土)~5/17(日) ART NOW 2015	小田原城天守閣 問 090-8846-7842
5/1(金)~5/31(日) 休廊あり 不思議で繊細 永井均展	アトリエ菩提樹 0463-75-0888
5/12(火)~5/17(日) 露木公平~笑顔の贈り物~	丹沢美術館 0463-83-9550
5/26(火)~5/31(日) 高橋尚美 マーマン展	丹沢美術館 0463-83-9550

東海道五十三次 21(四日市宿・諏訪神社)

5年をかけ、足で歩いたスケッチ紀行 松野光純



四日市は、市庭(いちば)と湊(みなと)から発達したところといわれ、16世紀頃にはすでに四のつく日には市が開かれていたという。

また東海道43番目の宿駅として、

海上10里の渡りで尾張国(現愛知県)宮の宿まで船の便があったところである。

四日市市内にある諏訪神社を訪ねた。「おすわさん」として愛称されている諏訪神社は、建仁2年(1202)信州諏訪上・下両社を勧請したと伝えられる。毎年8月には、大四日市祭として、獅子舞、諏訪太鼓、鯨船、大入道等々郷土の文化財が披露される多彩な行事が行われるそうである。

神社の目の前に門前町が大きなアーケードとなつて振わっていた。

愚うことなど 横井山 泰



いよいよ新九郎の個展「箱ざんまい」です。小さな木の立方体のパズル。大きめの立方体に昔話の場面を描いたサイコロな絵本など、箱な作品が並びます。サイコロな絵本はアクリルに入っています。すぐに飾れて、保存も便利です。オーダーしたケースの出来上がりは大変よく、作品が喜んでいるように観えるから不思議です。これらの作品は鏡面の台に展示します。箱の作品には70cmキューブの大作もあります。タテに3つ重ねると天井までのタワーになりました、そこには鬼がいます。平面も正方形です。パズルに合わせて様々な大きさの正方形で、動物シリーズと昔話シリーズです。ゆったりした展示ですが、やや濃い雰囲気の一部があります。こちらは閃く猫のシリーズです。お楽しみに!

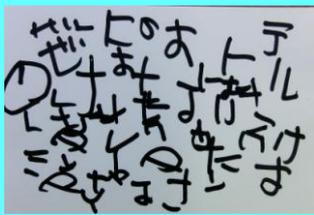
とあるコンペ、まだ内緒の連作、アートフェア東京の作品の額の依頼、などなどもやりつつ個展のはじまりです!5月2日には立川志ららさん、笑福亭瓶二さんの新九郎寄席、妻のカフェ38のお料理でパーティーもあります。志ららさんは真打昇進だそうです。おめでたいです。二ツ目の志ららさんを新九郎で観れるのは、これが最後ということです。めでたいついでに僕も39歳になりました。このところありがたい事が続き、常に感謝で精進して参ります。

**第3回
アール・ド・ヴィーヴル展
自分らしく生きるⅢ**

NPO法人アール・ド・ヴィーヴルは、障がいのある人たちに「自分らしく生きる」場を提供し、アート活動を通じた社会参加を応援しています。昨年、一昨年に引き続き、今年も作品展「自分らしく生きるⅢ」を開催させていただくこととなりました。一部ではありますが、12名の出展作家の作品をご紹介します。(順不同)



阿部花凜 (あべかりん)
心が踊るようなヴィヴィッドな色合いが特徴のかりんさんの作品はどこでも人気。作品をみていると元気が出ると病院や公共施設等への展示依頼も多い。



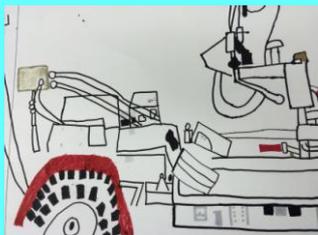
中山 彩 (なかやまあや)
ポップな文字が踊る彩さんの作品。彩さんが来るとアトリエ全体が喜んでいるような空気になる。音楽やダンスが大好きで、マイケル・ジャクソンを愛する彼女には彼のメッセージがどんなふう聞こえるのだろう。



藤原夕里花 (ふじわらゆりか)
ラブ、ピース、限りない友情、かわいらしさ...温かさや明るさが溢れるゆりかさんの作品。まるで彼女の内面が現れるようだ。



塚本愛実 (つかもとまなみ)
フィギュアを作り続けて11年、細かくパーツ毎に作って組み立てる技は、彼女に神様が授けた才能だ。まなみさんの手の中に入った粘土は、あっという間にパーツに変身。まるでマジックをみているよう。



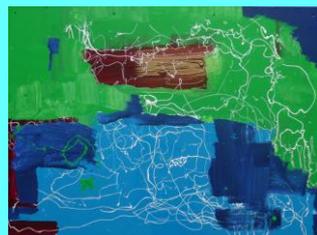
山田和彦 (やまだかずひこ)
ウルトラマンを描くのが大好きで、彼の作品を商品化する時は、円谷プロに確認を得る。他にも描けると世界が広がるだろうと思っていたらこんな大作が出来上がった。巨大作品のため写真は作品の一部。



ケリー幸太エドワード (ケリーこうたエドワード)
ケリーさんと言えばストライプと言うほどストライプが大好き。色と色の美しいハーモニーが独特の世界を醸し出す。和太鼓とスキーが得意な19歳。



萩原幹大 (はぎわらかんた)
独特の書体は、もはや「かんたフォント」と名付けたいほど。文字を描き続けて10年、どんどん進化している。インクが空になるまで使ったボールペンは100本を超えた。一日も休まず描いている。



常盤和孝 (ときわかずたか)
生れてはじめてペンキを扱い、巨大な鉄板に描かれた力強い作品。小田原市内のバッカー車(ごみ収集車)のボディを飾り、町を走ります。



蘆田珠希 (あしたたまき)
作品が画用紙一枚に納まることは稀で、パーツ毎に描いた画用紙をパズルのように合わせると作品が完成する。ダイナミックに描くその表情は、とても愛らしい。



佐藤風沙 (さとうなぎさ)
彼女にとってゴミはない。すべてが作品材料となり、アバンギャルドでエコな作品を生み出す風沙さん。その創作アイデアはどこから来るのだろうか？



平井礼央奈 (ひらいれおな)
クレヨンやマーカーを遣い、まるで糸を紡ぐような緻密な作業を積み重ねた作品。繊細さとステージ度胸の据わった大胆さをあわせもつ彼女は、ヒップホップダンス歴10年。



山崎大樹 (やまざきだいき)
その日の気分や選ぶ色が違う山崎さん。最近絵筆も自分のセレクトで取り組む。彼の声が聴いてみたいと思いつつながら3年が経った。トレードマークの恐竜と卵は今日も絵筆をとる彼の傍らに居る。

絵てがみ折々 ー小田原の暮らしの中でー



野地 三恵
ユリの木を初めて見たのは、初夏の辻村植物公園だった。高く繁ったその木は、黄緑で朱色の入った小さな花を梢に沢山つけていた。
半纏のような形をした葉にも特徴があるところから、別名、半纏木(はんでんぼく)ともいう。
ユリの木という名前や、チェリーリップのような花の美しさに惹かれてすっかり虜になり、東京国立博物館に大木があると聞けば見に行ったりしていた。やがてその葉や樹形を覚えると、公園にも街路樹としても、身近な所に植えてあるのが分かった。

何年前か、また辻村植物公園を訪れた。土手に登り、高い枝に咲く花を、伸び上がっては描いた。懐かしい思い出である。

4月のこと

上野東京ラインで小田原からわずか1時間半、乗り換えもなく上野についた。これは便利になった。今日はOMP企画「谷根千のギャラリー巡り&そぞろ歩き」の下見だ。上野の森を抜け、芸大美術館、黒田記念館、国際子ども図書館を見学。谷中銀座を目指す。谷中は坂とお寺とギャラリーの町だ。小路に入ると粹な黒塀。元質屋だった町屋と倉を生かしたギャラリーだ。さらに進んで朝倉彫塑館。会場の説明もスタッフも丁寧で好印象だ。朝倉文夫は文化勲章受章者で日本近代彫刻の母体を作った人である。4mをゆうに超える天井の展示室は元アトリエだ。地下からせり出す台座で大きな彫刻も制作ができる設えも圧巻だ。自身の設計になる建物は、池のある中庭を囲んで部屋が作られていた。壁一面の書棚を持つ書斎、見事な調度品に目を奪われる応接間、天井、壁、座卓まで最高の美を追求した大広間、昭和の初期に作ったという彫刻も楽しめる屋上庭園。日本彫刻界に君臨し海外をも意識した人の威信をかけた建築は必見だ。

谷中銀座はまさに観光客であふれていた。外国人も多い。焼き鳥や揚げ物を食べながら生酒に生ビールの立ち飲みが大人気だ。たい焼き、甘味カフェ、話題のかき氷屋さんも行列で、そぞろ歩きの目と鼻をくすぐる。現代アートギャラリー他3軒ギャラリーをのぞき、岡倉天心記念公園で天心像に挨拶し、根津の弥生美術館へ向かう。

6月14日(日)おだわらミュージアムプロジェクト日帰りツアー「私を美術館に連れてって・・・」を企画中だ。話題の「谷根千そぞろ歩き」にぜひご参加ください。木